

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	(企業会計)新病院(附属医療施設を含む)整備事業		
部 局 名	病院局	課(室)名	新病院整備課
電話番号	087-839-2696		

【事業全体概要】まちづくりの目標：健やかにいきいきと暮らせるまち

総合計画	政策	健やかに暮らせる環境づくり		主体	市
	施策	医療体制の充実		期間	平成2年度～平成3年度
	基本事業	医療施設の整備・充実		総事業費	23,079,031
重点取組項目	重点取組課題6		特定財源	国	
関連根拠法令等	第4次行財政改革計画			県	1,164,977
事業区分	自治事務	種別	事中・事後	市債	15,184,250
事業種類	起債			他	6,310,636
				一般	419,168

事業の概要
 「高松市民病院と香川診療所を移転統合した新病院を整備し、塩江分院をその附属医療施設とする。」という基本方針に基づき、新病院は、本市医療全体の最適化を目指すリーディングホスピタルとして、急性期医療及び地域包括ケアの後方支援機能を担える病院に整備するとともに、附属医療施設は、「地域まるごと医療」を実践し、塩江の地域包括ケアに貢献できる病院に整備する。

【事業の目的と指標】

対象	新病院及び附属医療施設	対象指標名	整備対象施設数
手段	高松市民病院と高松市民病院附属香川診療所を移転統合した新病院を整備するとともに、高松市民病院塩江分院をその附属医療施設として整備する。	活動指標名	単年度整備率
意図	新病院は、本市医療全体の最適化を目指すリーディングホスピタルとして、急性期医療及び地域包括ケアの後方支援機能を担える病院に整備するとともに、附属医療施設は、「地域まるごと医療」を実践し、塩江の地域包括ケアに貢献できる病院に整備する。	成果指標名	全事業期間における進捗率
結果	市民等に対して、適切で良質な医療の提供体制の確保ができる。	効率指標名	各年度における整備事業費/人件費

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標値	目標年度
対象指標	施設	0	0	0	2	平成3年度
活動指標	%	0.4	0.5	2.9		平成3年度
成果指標	%	6.8	6.3	11.9		平成3年度
効率指標	比	0.4	1.25	11.3		平成3年度
トータルコスト	[千円]	74,522	118,372	677,125		
(事業費)	[千円]	21,632	65,824	622,117		
(職員人件費)	[千円]	52,890	52,548	55,008		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
有識者等で構成された「高松市民病院あり方検討懇談会」から、市長に提出された「高松市民病院は、香川病院との統合を前提として、病院移転を図り、塩江病院との機能連携をもとに附属施設として存続させるべき」との提言を踏まえ、市立3病院を統合・再編し、新病院及び附属医療施設を整備する。	新病院は、市議会等から早期整備を、附属医療施設は、塩江地区地域審議会から整備場所の早期確保を求められている。国は、超高齢社会の到来を見据え、持続可能な社会保障制度を確立するため、「効率的で質の高い医療提供体制」と「地域包括ケアシステム」の構築を進めるほか、療養病床の在り方等を検討している。	新病院は、市議会等から平成30年度前半の開院に遅れが生じないように、附属医療施設は、引き続き、塩江地区地域審議会から整備場所の早期確保を求められている。県は、国の医療施策に基づき、28年度に地域医療構想を策定し、医療機能の更なる機能分化を推進するとともに、地域包括ケアシステムの構築を求めている。	新病院は、市議会等から平成30年度前半を念頭に1日も早い開院を、附属医療施設は、引き続き、塩江地区地域審議会が整備場所の早期確保を求めている。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か
B 現段階では市による実施が妥当である 本市では、病院事業の経営形態を地方公営企業法の全部適用とし、市民病院、塩江分院、香川診療所の3医療施設を市立病院として運営していることから、市の関与は妥当である。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか
A 貢献度が大きい 新病院や附属医療施設を整備することにより、医療体制の充実が図られ、「健やかに暮らせる環境づくり」に貢献できる。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか
A 必要性はない 新病院は、本市医療全体の最適化を目指すリーディングホスピタルとして、平成30年度前半の開院に向けて計画的に整備を進めている。附属医療施設は、塩江地区唯一の医療機関として地域医療を提供するため、計画的な整備が必要である。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか
A 影響は大きい 新病院、附属医療施設とも、現施設が老朽化しており耐震性も現在の基準を満たしていないため、将来の医療提供体制の充実に著しく悪影響を及ぼす。また、旧塩江町・香川町との合併協定の項目に挙げられていることから影響は大きい。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか）
C 事業の実施や見直しについて、市民委員会等の意見を反映している 基本構想は、市民からの公募委員を含む懇談会の意見を踏まえ、基本計画は、地元関係者、地域審議会への説明等を実施する中で策定した。また、実施設計は、地域住民も参加する「経営会議」や、有識者等で構成する「市立病院を良くする会」からの市立病院に必要な医療機能等に関する意見も反映させている。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか
B 向上余地が考えられる（中小程度） 新病院は、計画的な整備に努め平成30年度前半の開院に向けて取り組む。附属医療施設は、引き続き、整備場所の土地所有者と粘り強く協議を行い、用地取得に取り組むとともに、地域包括ケアシステムの構築など、国の医療施策に沿った対応を検討する。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか）
B 改善計画を策定した 新病院は、適切な事業費の積算や平成30年度前半の開院から逆算した工程管理を行ったほか、地域包括ケア病棟の整備など、国の医療施策の方針に沿った対応をした。附属医療施設は、用地取得に向け、土地所有者と交渉した。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか
C 概ね達成できた 新病院は、適切な事業費の積算を行うとともに新築・電気設備・機械設備工事に着手した。附属医療施設は、用地取得に向け土地所有者と交渉したものの、確保までには至らなかった。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか
C 概ね達成できた 新病院は、適切な事業費の積算を行うとともに新築・電気設備・機械設備工事に着手した。附属医療施設は、用地取得に向け土地所有者と交渉したものの、確保までには至らなかった。
10. コスト縮減ができたか
B 縮減できた 新病院は、医療機器等の導入計画作成により、使用可能な医療機器等の見直しを行った結果、医療機能は変えずに経費の縮減を図ることができた。附属医療施設は、27年度から実施された、より有利な財源である病院事業債特別分の適用を申請し、認められた。

【一次評価】

評価区分	継続																	
当該事業は、市民に質の高い医療を適切かつ効率的に提供することから、「医療体制の充実」に有効な事業である。																		
改革案																		
内容	阻害要因	期待効果																
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持			低下
	コスト																	
	削減	維持	増加															
成果	向上																	
	維持																	
	低下																	

【二次評価】

評価区分	継続
新病院を、急性期病院として医療機能の充実を図るとともに地域包括ケアの後方支援機能を担う病院に、また、附属医療施設を、塩江地区唯一の病院として塩江の地域包括ケアに貢献できる病院に整備することは、本市医療全体の最適化を図る上で極めて有効な事業である。	